



堀 直樹

HORI Naoki

三菱UFJ銀行特別顧問
関経連副会長

談論 風発

INTERVIEW

未来志向と 挑戦の循環が創る 関西・日本のこれから



このたび関経連副会長を拝命し、経済財政委員会ならびにスタートアップ・エコシステム委員会を担当させていただきます。松本会長、副会長の皆さまをはじめ、関係各位からのご指導を賜りながら、関西経済のさらなる発展のために全力を尽くしてまいります。

ここ関西は、三菱UFJ銀行の前身の一つである三和銀行の創業の地であり、三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)にとって「マザー・マーケット」であります。私自身も奈良で生まれ育ち、奈良・京都で学び、社会人としてのスタートも大阪船場と、関西と深くかわる人生を歩んできました。今回の副会長就任を機に、関西に恩返ししたいと強く感じております。

ところで、名僧・藤代聡磨氏の法語の一つに『これからがこれまでを決める』という言葉があります。「過去に積み上げてきたものが未来を決める」という一般論とは逆の、「これからの取り組みによって、過去の努力の価値が決まる」という、未来志向の本質を示している言葉であり、私自身もあらゆる局面で座右の銘として大切にしてきました。

経済財政委員会では、「財政規律を強く意識した国家財政のあり方」などを議論していますが、経済成長と財政健全化の両立に向けて、政府・経済界・国民が「これからめざすべき姿」という同じ将来像を共有し、知恵を出し合うことが不可欠であると考えています。

2026年7月に公表された「日本成長戦略」では、強い経済に向けた危機管理投資と成長投資が掲げられていますが、その実現には「これから」の財政の健全化が不可欠であり、未来志向に立脚した「これから」の取り組みが、「これまで」積み上げてきた日本の信頼・信用の価値をより高めると考えています。

一方、スタートアップ・エコシステム委員会でも、関西・日本の成長力をより高めるべく多面的な議論を重ねています。関西には、世界的に見ても最先端の研究や技術開発を行っている企業や大学などが集積している上に、商人文化の中で生まれた「進取の気性」のもと、未来志向で新しい文化や技術を受け入れ、変化を恐れず挑戦する風土があります。

2025年大阪・関西万博ではさまざまな挑戦の成果が披露され、社会実装に向けた機運が高まりました。これを一過性のものに終わらせることなく、関西を、ヒト・モノ・カネ、そして情報が自然に集積し、地域や業種の垣根を越えた連携を通じて、全体最適を実現する社会実装のプラットフォームへと発展させることが重要です。その実現に向け、MUFGも産学官をつなぐ取り組みをめざします。

例えば、私が理事長を務める関西イノベーションセンター(MUIC Kansai)では、万博で披露された技術・アイデアの社会実装化に取り組んでいます。また、去年は「MUFG Startup Summit」を大阪で開催し、数多くのスタートアップ企業や大企業・自治体に集まっていただき、多くの実証案件化を実現しました。来る10月に開催される「Global Startup EXPO 2026」も、多様な技術・アイデアと国内外の投資家・事業会社をつないでいく良い機会になると考えています。

今後とも、国家財政の信頼・信用を守り抜きながら、新たな挑戦を果敢に行い、将来世代にとって大きな成長につながる投資と人材育成を進めることが、わが国の持続的成長にとって不可欠です。未来志向と挑戦の循環を通じて、豊かで明るい日本のこれからを関西から切り開けるよう、職責を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。(談)